

東京マラソン2026のCO2排出量事後算定結果を発表 アスエネ株式会社と共同で、2028大会のカーボンニュートラルを目指し、 20回大会から削減アクションの実装へ

一般財団法人東京マラソン財団は、アスエネ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：西和田 浩平）と共同で、2026年3月1日に開催された「東京マラソン2026」について、CO2排出量の事後算定を完了しました。

事後算定の結果、総排出量は26,628t-CO2となり、事前算定と比較して2.3%増加しました。大会実施後に取得した実績データを反映させ、より精緻な算定を行った結果によるものであり、データの網羅性と正確性が向上したことを示します。

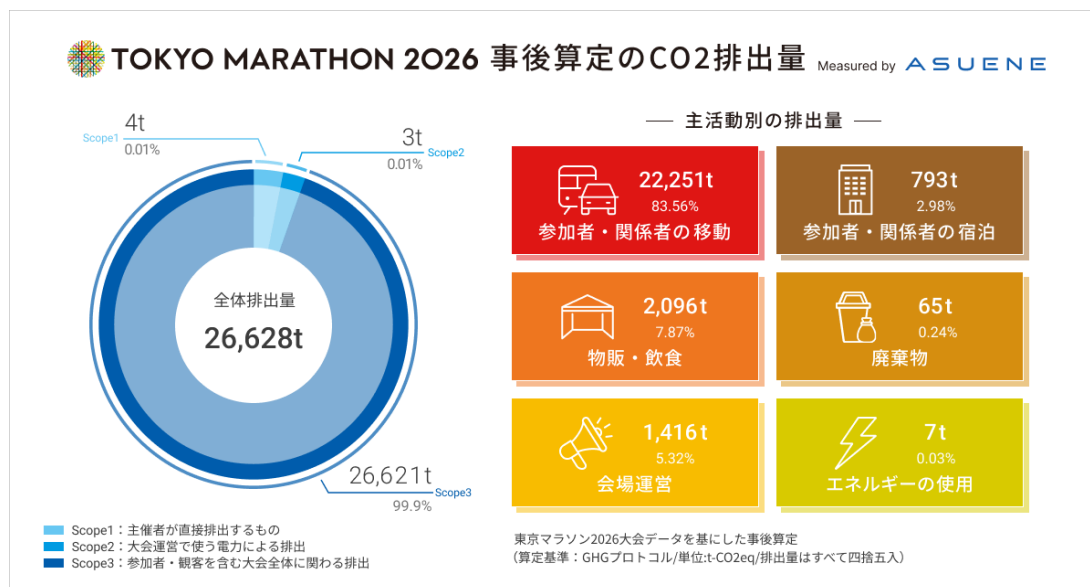
「東京マラソン2026」では、大会全体の排出構造を見える化しました。この算定により、20回大会にあたる「東京マラソン2027（以下、2027大会）」以降の削減施策検討につながる、より精緻な排出量データを把握することができました。

東京マラソン財団とアスエネ株式会社は、今回の算定結果をもとに、排出量削減ロードマップの策定を進めます。2027大会から削減アクションを開始し、2028大会でのカーボンニュートラル達成を目指します。

※アスエネ株式会社は、2026年から2028年にかけて進める3年間の東京マラソンのサステナビリティパートナーシップを締結しています。（2025年11月11日発表済み）

参考：

<https://www.marathon.tokyo/media/press-release/pdf/b468a7fc37cf19a539a0e71ae3eaaf1bfb50b019.pdf>



事後算定の結果

「東京マラソン2026」の事後算定では、大会にかかる実際の CO2排出量を、各種実績データを用いて算定しました。その結果、Scope1・2・3の総排出量は26,628t-CO2となり、事前算定の26,029t-CO2と比較して2.3%増加しました。

今回の事後算定では、大会後に取得した実績データを反映するとともに、関係者の移動、大会関連販売物、参加者の移動などの算定範囲を精緻化しています。参加者の移動では、本大会参加者との重複を踏まえた算定や、移動エリアの細分化により、海外・国内参加者の移動実態をより細かく反映しました。

これらのデータ範囲の拡大により、2026大会の排出構造をより精緻に把握することができました。

算定項目ごとの CO2排出量と割合

総排出量：26,628t-CO2

- ・Scope1（主催者が直接排出するもの）：4t-CO2
- ・Scope2（大会運営で使う電力による排出）：3t-CO2
- ・Scope3（参加者・観客を含む大会全体に関わる排出）：26,621t-CO2

主な内訳は以下の通りです。

- ・参加者・観客・関係者の移動：22,251t-CO2（84%、事前算定との差分 -766t-CO2）
- ・参加者の宿泊：793t-CO2（3%、事前算定との差分 7t-CO2）
- ・物品・飲食調達：2,096t-CO2（8%、事前算定との差分 361t-CO2）
- ・防寒衣類やシューズなどを含む廃棄物：65t-CO2（0.2%、事前算定との差分 53t-CO2）
- ・会場設営・運営に伴うサービス：1,416t-CO2（5%、事前算定との差分 940t-CO2）
- ・会場・関連施設でのエネルギー使用：7t-CO2（0.03%、事前算定との差分 3t-CO2）

* 排出量はすべて四捨五入

カテゴリ別では、参加者・観客・関係者の移動など「人の移動」が22,251t で、総排出量の84%を占めました。マラソン大会の CO2排出量が、主催者だけでなく、多くの生活者の行動と密接に結びついていることを示しています。

2028大会のカーボンニュートラルに向けて、2027大会は「削減アクション」を開始



「東京マラソン2026」では、Scope1・2・3を対象に CO2排出量を算定、大会全体の排出構造を見る化し、2027大会以降の削減施策検討につながる基礎データを整備しました。

2027大会では、このデータをもとに削減アクションを開始します。東京マラソン財団とアスエネ株式会社は、排出量削減ロードマップをともに策定し、2028大会でのカーボンニュートラル達成を目指します。

「東京マラソン2027」は記念すべき20回大会にあたります。節目の大会から削減アクションを開始することで、2028大会に向けた取り組みを具体化していきます。

東京マラソンをきっかけに、CO2排出量を自分ごと化する機会へ

東京マラソンは、国内外から多くのランナーが集まり、ボランティア、観客、協賛企業、地域社会が一体となってつくる、世界最大級の国際マラソン大会です。大会に伴う CO2排出量は、会場運営だけでなく、移動、購買、飲食、廃棄など、日常の行動ともつながっています。

今回の事後算定では、参加者・観客・関係者の移動が総排出量の84%を占めました。一方で、「走る」という行為そのものは、人の力で前に進む、環境負荷の少ない移動でもあります。東京マラソンを通じて、走ることがもたらす健康や交流、都市のにぎわいといったポジティブな価値と、移動手段や日々の選択を少し変えることで CO2排出量の削減につながる可能性の両面を、正しく見える化し、発信していきます。

ランニングスポーツは、気温上昇や異常気象など、温暖化の影響を受けやすいスポーツです。だからこそ、まずは大会に伴う CO2排出量を正確に把握し、その結果を次の行動につなげることが重要です。

東京マラソン財団とアスエネ株式会社は、2027大会に向けて、排出量削減ロードマップを策定します。そして、東京マラソン EXPO や、東京マラソン財団のサステナビリティ事業「RUN CYCLE SQUARE」などを通じて、参加者・生活者が CO2排出量を自分ごととして考える機会を創出していきます。

アスエネ 会社概要

会社名：アスエネ株式会社

事業内容：

- ・サステナビリティ AI プラットフォーム「ASUENE」
- ・サプライチェーンマネジメント AI プラットフォーム「ASUENE SUPPLY CHAIN」
- ・サステナビリティ採用 AI プラットフォーム「ASUENE CAREER」

グループ会社：

- ・カーボンクレジット統合 AI プラットフォーム「Carbon EX」
- ・第三者保証/検証・開示アドバイザー「ASUENE VERITAS」
- ・AI データ連携プラットフォーム「Anyflow」
- ・AI エネルギー削減プラットフォーム「NZero」

資本金：83億円（資本剰余金含む）

代表者：Founder 代表取締役 CEO 西和田 浩平

住所：東京都港区虎ノ門一丁目3-1 東京虎ノ門グローバルスクエア 6階

拠点：日本、シンガポール、米国、タイ、英国、フィリピン

URL：<https://corp.asuene.com/>

【GHG算出に関するお問い合わせ先】※以下、問合せ番号の媒体への掲載はご遠慮ください

アスエネ株式会社 広報担当：伊集・服部

電話：050-3188-4866 MAIL：press@asuene.com

<https://corp.asuene.com/form/contact>

【報道関係者向け問合せ先】※以下、問合せ番号の媒体への掲載はご遠慮ください

一般財団法人東京マラソン財団 広報担当：黒川、福島、鈴木、飯塚、二本木、中村

電話：03-6279-0048 MAIL：press_tm@tokyo42195.org（10:00～17:00 ※土日祝を除く）